

7月7日、晴れますように。「たなばた」

4月に入園・入学・進級してから、早くも3か月が経ち、夏休みを迎える7月です。7月の行事といえば、**七夕まつり**。織姫様と彦星様が一年に一度だけ会える日の七夕は、願いごとをする行事としても、子どもたちに親しまれています。

七夕に願いごとをするのは、中国の風習が由来です。はた織りの上手な織姫様にあやかっ、裁縫の上達を願うものでした。今では、何かの上達をお願いしていますが、それは自分自身の抱負ともいえます。

星にまつわる伝説は、子どもたちが星座に興味・関心を広げるきっかけにもなります。織姫とされている琴座の「ベガ」と、彦星とされている鷺座の「アルタイル」は、7月7日頃になると天の川の両方の岸に位置し、最も光り輝いて見えることされ、星座の配置と伝説がぴったり重なるのです。この時季のプラネタリウムは、ロマンティックな七夕伝説です。

7月7日の夜、親子で星雲を見上げてみましょう。天の川を渡るベガと、アルタイルが見えるでしょうか。

★ビブリアキッズでは、**七夕おはなし会**を開催します。

7月5日(土)午前11時〜12時

対象は2歳から5歳くらい

七夕ワークシヨップもあります。

先着8組予約制です。

家族・お友だちと、日本の伝統行事を楽しみましょう。

7月のおすすめ絵本



『たなばたプールびらき』
中川ひろたか 文 村上康成 絵
(童心社)

七夕とプールがドッキングされたお話は、この季節にこそ読みたい一冊です。七夕おはなし会で読みますよ！

右記記事参考絵本
『たなばたものがたり』
舟崎克彦 文 二俣英五郎 絵
(教育画劇)



ペンギンクイズ番外編

「のらねこぐんだん」で大人気の工藤ノリコさんが描くペンギン絵本は、「ペンギンきょうだい」のシリーズです。現在までに4作ありますが、「れっしゅのたび」「ふねのたび」「そのたび」と、あとひとつは何の旅をしたでしょう。

- ① しんかんせんのたび
- ② バスのたび
- ③ ちかのたび
- ④ じてんしゃのたび



クイズのこたえ②バスのたび

シリーズは、列車→船→飛行機→バスと周遊する間に、季節が春→夏→秋→冬と移り変わります。乗りものと四季の移ろい、そして「おいしい食べもの」が味わえる絶品です。

『ペンギんきょうだい れっしゅのたび』
工藤ノリコ 作
(ブロンズ新社)



期間：7/2～8/31

今月のビブリアラボ「おぼけ・妖怪大集合展」



ビブリアラボ夏の恒例企画展は、「おぼけ・妖怪絵本展」です。年間で一番人気の、2か月連続開催です。でも、なぜ夏になると、怪談イベントや肝だめしが行われるのでしょうか。「夏＝おぼけ」の理由をひも解いてみましょう。

日本の夏に、怪談や妖怪の話が広まったのは、お盆の行事と、日本の伝統芸能である歌舞伎に由来します。

お盆は、昔ながらの日本的な民俗行事と仏教行事がもとになり、ご先祖様の霊が戻ってくる期間とされています。家族にはありがたい霊ですので、お盆の間、お供え物をして供養します。しかし、帰ってくるのはご先祖さまだけでなく、何かに強い恨みをもつ怨霊や、供養してくれない人のいなかった無縁仏なども現れると考えられています。ただ、出没するだけならいいのですが、悪さをされると……。

さらに、歌舞伎界の影響も受けています。江戸時代の芝居小屋には、冷房設備などなく、暑い夏になると観客が減っていました。そのため人気役者は避暑地を巡業したりして、芝居小屋には、普段端役の役者しか残っていません。そこで、人気役者がいなくても特殊効果や人形、しかけを駆使してできる怪談が演目となったのです。江戸の庶民に大ウケした怪談物は、やがて夏の定番となり、今に続いているというわけです。最大のヒット作は、『四谷怪談』でした。おぼけ・妖怪が大集合する夏とは、日本の文化によるものなのです。

日本の文化を、絵本という文化財でご体感ください。

司書 あん

レベル10 [大人も怖い！怪談]



『くうきにんげん』
綾辻行人 作 牧野千穂 絵
東 雅夫 監修 (岩崎書店)

レベル0 [かわいい おぼけ]



『おぼけの
うちゅうりょこう』
ジャック・デュケノワ 作
おおさわ あきら訳 (ほるぷ出版)